

📖 今月のおすすめ本 📖

『労働系女子マンガ論！』【726.101/ト】

トミヤマ ユキコ (2023)タバックス

本書は、少女マンガにおける女性労働表象の研究をしている作者が、女子が登場しかつその女子が働いているマンガを「労働系女子マンガ」と名付け、仕事か家庭か恋愛かなど絶えず選択を迫られる働く女性を描いたマンガを分析・考察している本です。

章立てとして「少女マンガ隆盛期」、「仕事と恋」の時代、「労働の多様化・細分化」と大きく3つに分け、池田理代子の『ベルサイユのばら』や、一条ゆかりの『デザイナー』など王道マンガから、安田弘之の『ちひろさん』や西炯子の『甥の一生』など隠れ名作まで、様々な作品を挙げ労働を切り口に考察しています。さらに、映画化・アニメ化もされた『はいからさんが通る』では主人公の友達について、獣医を目指す学生達を描いている『動物のお医者さん』ではなかなか就職できない理系女院生についてフォーカスするなど、興味深いです。ぜひ手に取ってみてはいかがでしょうか？

📖 マンガ・仕事について

『はたらく物語 マンガ・アニメ・映画から「仕事」を考える8章』【366.04/コ】

河野真太郎(2023)笠間書院

『仕事でも、仕事じゃなくても』 【726.101/ヨ】

よしなが ふみ(2022)フィルムアート社

『インティマシー・コーディネーター 正義の味方じゃないけれど』 【778.4/ニ】

西山 ももこ (2024)論創社

「インティマシー」とは「親密さ」という意味で、映画やドラマでの性的描写や体を露出するシーンのことを、「インティマシー・シーン intimate scene」と総称しています。インティマシー・コーディネーターとは、そのようなインティマシー・シーンが安全に撮影されるための調整役となります。すなわち、俳優が安心して演じられる環境を整え、俳優の同意のもと、監督など制作サイドとの間に立ち撮影の場で調整する役として存在するものです。

この仕事は、2017年頃のMeToo運動をきっかけに生まれたとされていますが、日本ではまだ知名度も低く、2023年日本にまだ2人しかインティマシー・コーディネーターはいません。本書では、その数少ない内の1人である作者が、ロケ・コーディネーターとして働きながらどのようにしてこの職に就くことになったのか、仕事の詳しい内容やそのとりまく環境、展望について書かれています。

📖 インティマシー・コーディネーターのきっかけとなったMeToo運動について

『その名を暴け #MeTooに火をつけたジャーナリストたちの闘い』【367.1/カ】

ジョディ・カンター(2020)新潮社

『 SHE SAID / その名を暴け 』 【DVD/368.64/シ】 DVDです

マリア・シュラーダー / 監督(2023)NBCユニバーサル・エンターテイメント